

面会時の家族への援助についての検討

集中治療部・救急部：発表者 高野佐江子

宮本 夕香・平出 美穂・井口 靖子・青木 周子
樋口いち子・下村 陽子・草深 仁子・三宅千代子
柳沢 早苗・二木 朗江

I はじめに

近年集中治療室（以下ICUとする。）における面会の重要性が認識されつつある。

ICUという特殊環境において、患者がうけるストレスは我々が考える以上に大きいと思われる。患者の精神的安寧を保つためには、家族との触れ合いは欠かせないものである。当ICUでは1日3回5～10分間という面会制限を設けている。この時間内で十分な家族との触れ合いがもたれているか疑問に思った。また日頃の面会を通し挿管している姿に驚き、ただ茫然と患者を見つめ何も言えず帰る家族を何度となく見ている。このような現状で、私達の働きかけは重要なポイントとなると考えた。

そこで、今までの対応を振り返り患者と家族が密な会話をかわし、触れ合うことができるような直接的・間接的援助を目指し、検討を重ね、実施したのでここに報告する。

II 研究期間

平成元年1月～8月

III 研究方法

1. 平成元年3月に3日以上ICUに在室した患者の家族20名及び、ICU看護婦20名に対して、面会についてアンケート調査を行なった。

調査結果より面会における問題点を抽出。この結果より面会制限の改正を行ない、対応マニュアルを作成し、活用した。

2. 平成元年7月～8月に3日以上ICUに在室した患者の家族20名及びICU看護婦20名に対して、面会制限の改正及び対応マニュアル活用後のアンケート調査を行なった。

※ アンケート内容及び調査結果については、資料1参照。

IV 結果

1. 研究方法1の結果

① 面会回数

家族・看護婦共に3回では「少ない」と答える人もいたが、3回で「良い」が多かった。

② 面会時刻

家族からは「都合が悪い」が半数、看護婦からも「改善すべき」が半数以上だった。いずれも7:00は早く、20:30は遅いという理由からだった。

③ 面会時間

家族からは5～10分で「良い」がほとんどであり、看護婦からも「良い」が多かった。しかし看護婦の中には「短かい」と答える人もいた。

④ 面会人数

家族からは2～3人で「良い」がほとんどだったが手術直後はもっと人数を増して欲しいという意見もあった。看護婦からは、少ないという意見が多かった。

⑤ 看護婦の対応

家族からは「良かった」がほとんどだったが、「黙って立っている」「別の仕事をしている」という声もあった。

看護婦からは「必ず声をかける」が少なく、「必要時声をかける」「家族にきかれた時のみ対応する」が半数だった。

⑥ 看護婦の対応に希望すること

家族から「もう少し気をつけて欲しい」「常時そばにいて欲しい」などの意見があった。

⑦ 看護婦としてどう対応したらよいか

「家族が患者に声かけしやすいように看護婦が声かけできればいい」「患者と家族の橋渡しをしたいが、具体的にどうしたらよいかかわからない」という意見が多かった。

以上のことから抽出された問題点として、

1) 面会制限の緩和の必要性

2) 看護婦の対応の充実

が上げられ面会制限を下記のように改正し、対応マニュアルを作成した。

面会制限の改正

<時刻> 7:00～7:30 → 7:30～8:00

20:30～21:00 → 19:30～20:00

<時間> 5～10分 → 30分以内

<人数> 2～3名 → 6名までとし、2名ずつ交替で面会してもらう。

<予防衣・帽子> 5床に対し6枚 → 各家族に2枚ずつとし、患者名を示した。

対応マニュアルの作成（資料2参照）

2. 研究方法2の結果

① 面会回数

従来通り3回では「少ないという人もいたが、「良い」が多かった。

② 面会時刻

家族からは「都合が悪い」と答える人もいたが、「良い」がほとんどだった。看護婦からは「良かった」がほとんどだった。

③ 面会時間

家族・看護婦ともに「良い」がほとんどだった。

④ 面会人数

家族・看護婦ともに「良い」がほとんどだった。さらに「予防衣を各家族2枚ずつとしたことで混雑せずよかった」という意見もきかれた。

⑤ 看護婦の応対について

家族からは「いつも声をかけてきた」「ずっとそばにいて良かった」がほとんどだった。中には、「そばにいと監視されているようで気になった」という人もいた。

看護婦は、マニュアルを参考にしている人がほとんどであり、家族への応対が変わったと答えている。そして「必ず声をかける」「手を握ってもらう」「できるだけ家族と会話をもつようにしている」人が増え、「面会に対してより積極的なかわりをもてるきっかけとなった」という声が多かった。

V 考察

ICUでは患者の生命維持又は、回復のための治療を行なうことに全力を尽している。しかし、治療を主体とするあまり患者の精神面の援助は、二の次になりがちである。

患者にとって精神的援助は、疾病の回復過程において不可欠なものであり、家族の励ましが何よりである。

そこで私達は患者が家族と触れ合う唯一の時間である面会の内容を充実させることが大切であると考え、援助方法を検討してみた。

今回行ったアンケート調査から、当ICUにおける面会について二つの問題点が上がった。

面会制限については緩和の方向へと改正を試み、ほぼ良いという結果がでた。とりわけ面会時間を30分以内と延長したこと、予防衣を一家族2枚としたことで面会時の混雑を解消することができ、余裕をもって面会してもらうことができた。また、看護婦にとっても朝のチェック時を避けることで、ベッドサイドで家族に應對しやすくなった。

看護婦の應對についてはマニュアルを作成し、具体的な内容を上げたことにより、家族に手を握ってもらう、一緒に洗面介助をしてもらうなど、積極的な援助ができるようになった。その結果以前はただ茫然と患者の顔を見ていた家族も緊張がとれ、表情も和らぎ、患者と家族とのコミュニケーションも増えた。さらに患者の表情も安らぎ、明るい笑顔が見られるようになった。またメンバー間でもマニュアルを活用することで、自らの應對を見直すと共に面会に対するメンバー全員の意識を高めることができた。

私達は今後も面会時のかかわりを通し、家族の悲しみや当惑といった不安状態を共有すると共に、患者や家族が医療者側に望んでいることをひきだしていけるよう援助していきたい。

VI おわりに

ICUにおける面会の重要性を認識し、より充実した面会が行なわれるよう努力していきたい。

参考文献

- 1) 高橋定子他：集中治療における面会の現状と家族の役割，ICUとICU，11(3)：P 297～304，1987。
- 2) 高橋定子他：集中治療を受けている患者の家族への対応，臨牀看護，15(6)：P 796～800，1989。

- 3) 中村和子他：ICUにおける家族の役割を考える，ICUとICU，9（臨増）：P 245～246，1985。
- 4) 山科 章：患者家族からの発言，ICUとCCU8(9)：P 797～800，1984。

〔資料1〕 面会についてのアンケート・調査結果

1. 改正前

(1) 家族へのアンケート

- ① i) 面会の回数（1日3回）について，どう思われますか。

a	良 い	4
b	少ない	2
c	多 い	0

- ii) 面会回数は何回を希望されますか。

・ 4回 ・ 5回

- ② i) 面会時刻は7:00，12:30，20:30となっていますがどう思われますか。

a	良 い	3
b	都合が悪い	3

- ii) どのような時刻が良いですか

・ 18:00ころ ・ 20:30 → 19:00に

- ③ i) 面会時間（5～10分間）についてどう思われますか。

a	良 い	6
b	短かい	0
c	長 い	0

- ii) 面会時間はどのくらいを希望されますか。

・ 良いができれば 20～30分

- ④ i) 面会の人数（2～3人）について，どう思われますか。

a	良 い	6
b	少ない	0
c	多 い	0

- ii) 面会人数は何人がよいですか。

・ 良いが，手術のあと又は，緊急時もう少し増やしてほしい。

- ⑤ 面会時の看護婦の対応はどうですか。

- ・ いつも声をかけてきた
- ・ 他に仕事をしているようだった
- ・ 親切だった
- ・ 黙って立っているだけだった
- ・ ずっと側にいた
- ・ いろいろ説明してくれた

⑥ 看護婦の応対に希望することは何ですか。

- ・もう少し気をつけてもらいたい
- ・初めて入る人が多いと思うのもっと説明してほしい。
- ・面会時常時そばにいて質問に答えてほしい

(2) メンバーへのアンケート

① i) 面会回数(1日3回)についてどう思いますか。

a	良い	17
b	少ない	2
c	多い	0

ii) 面会回数は何回くらいがよいですか。

- ・4回
- ・5回

② i) 面会時刻7:00, 12:30, 20:30 についてどう思いますか。

a	良い	4
b	都合が悪い	13
c	未回答	2

ii) 面会時刻を改正するとしたら何時がよいですか。

- ・7:00 → 7:30
- ・20:30 → 18:00～19:00, 19:30, 20:00

③ i) 面会時間(5～10分以内)についてどう思いますか。

a	良い	13
b	短い	6
c	長い	0

ii) 面会時間はどのくらいが良いと思いますか。

- ・20～30分
- ・患者の状態による
- ・家族の希望による

④ i) 面会人数(2～3人)についてどう思いますか。

a	良い	2
b	少ない	17
c	多い	0

ii) 面会人数をどのようにしたらよいですか。

- ・臨機応変でよい
- ・2～3人で良いが、あまり多い時は制限する

⑤ あなたは面会時、いつも家族にどのように対応していますか。(複数回答可)

a	必ず声をかける	8
b	家族によって対応が違う	2
c	必要時のみ声をかける	10
d	家族に依頼することがある時	5
e	あいさつはする	3
f	その他	2

⑥ 看護婦としてどう家族に对应したらよいでしょうか。

- ・かなり細かいことまで質問されて困ったことがあった
- ・どう対応してよいかよくわからない
- ・面会に来た家族を迎える時の対応は、ねぎらいの言葉をかけた方が良い
- ・家族が患者に声かけしやすいように援助できたらよい
- ・家族にも洗面、マッサージなどできることを話し、参加してもらう

2. 改正後

(1) 家族へのアンケート

① i) 面会の回数(1日3回)についてどう思われますか。

a	良い	13
b	少ない	6
c	多い	1

ii) その理由をお聞かせください。

- a → ・良くなってほしいから、会えなくてもいいから治ることだけを祈っている
 - ・他の病院と比べると、3回は多いと思うがよかった
 - ・必要と思われる時、看護婦が呼んでくれるので良い
- b → ・安静が必要だから仕方がないが、もっと会いたい
 - ・できればずっとそばにいたい
- c → ・大変なところに通してもらい、3回でも多いと思う

② i) 面会時刻 7:00 → 7:30, 12:30, 20:30 → 19:30 となりましたがどうですか。

a	良い	15
b	都合が悪い	5

ii) その理由をお聞かせ下さい。

- a → ・朝は食事の時間と重なる
 - ・家に帰ったりできるので良い
 - ・病院で待期していればいつでも良い
- b → ・仕事のあとの面会は時間に間に合わない

③ i) 面会時間を5～10分以内を30分以内としましたがどうですか。

a	良 い	15
b	短 かい	3
c	長 い	2

ii) その理由をお聞かせください。

- a → ・30分あれば十分と思う
- b → ・ずっとそばにいたいから
- c → ・顔を見るだけで十分

④ i) 面会の人数を2～3人から6人までとしましたがどうですか。

a	良 い	15
b	少 ない	4
c	多 い	1

ii) その理由をお聞かせください。

- a → ・白衣が各家族2枚ずつになって、時間に余裕がもててよかった
・大変なところなので、いろいろ制限があるのは当然
- b → ・手術直後などは、大勢待機しているので合わせてほしい。
- c → ・大変なところなので、2～3人で十分

⑤ 看護婦の対応について御意見を聞かせて下さい。

- ・いつも声をかけてきたので良かった
- ・ずっとそばにいてくれた
- ・そばにいと監視されているようで気になった
- ・慣れない間は、不安なこともあるので側にいてほしいが、慣れてしまえば二人きりでもいい
- ・患者についている機械等の説明をしてほしい

(2) メンバーへのアンケート

① i) 面会時刻 7:00 → 7:30, 12:30, 20:30 → 19:30 についてどう思いますか。

a	良 い	17
b	都合が悪い	3

ii) その理由をお聞かせください

- a → ・チェックの時間にかからないので、朝ゆとりをもって仕事できる
・夜は家人にとって遅くならないので良いと思う
・チェックと重ならず、ベッドサイドに居やすくなった
- b → ・朝は医師、看護婦とも検査がある為、不都合だと思う

② 面会時間を5～10分以内から30分以内としたがどうですか。

a	良 い	15
b	短 かい	5
c	長 い	0

③ i) 面会時の対応についてマニュアルを作成しましたが、参考にしていますか。

a	はい	19
b	いいえ	1

ii) 自分の対応が変わりましたか。

a	良くなった	2
b	変わった	0
c	意識している	17
d	変わらない	1

iii) 面会時どのように対応するようになったでしょうか。

a	必ず声をかける	14
b	家族によって	3
c	必要時のみ声をかける	2
d	家族に依頼することがあるとき	2
e	必ず医師に連絡をする	0

f	必要時医師に連絡をする	15
g	医師不在時わかる範囲で応待	11
h	病状についてはいっさい話さない	4
i	家族にきかれた時のみ応待	4
j	そばにいただけ	0
k	その他(あいさつをする, 必ず手を握ってもらう)	

〔資料2〕 対応マニュアル

1. 面会時の準備

- カーテンをしめる。……プライバシーを守るため
- 照明……明るくする。
- ベッドサイドの整理
 - ・ベッド上……危険な物, 汚ない物を除去
 - ・ベッド周囲……機械, コード, ワゴンなど。家人が入れるスペースを作る。
- 患者の体位……可能なかぎり抑制帯をはずす。

2. 誘導

- 入口のブザーが鳴ったらすばやく対応する。
 - ・最初の場合, 説明する。
 - ・身仕度をチェックするとともに, 会釈をし「御苦労様です。どうぞお入り下さい。」と労をねぎらう言葉がけをする。
 - ・もし処置中等ですぐ面会できない時は, 「ただいま処置中ですので, しばらくお待ち下さい。」長時間待たせる場合は「ロビーでお待ち下さい。」
- 家族をベッドサイドまで誘導し, 患者の顔が見えるように配慮する。
- 患者には, 「〇〇さんが見えましたよ。」と声をかける。

* 看護婦の態度・表情について

- ・患者が上向き傾向であれば, 笑顔で家族を迎えるのもよい。
- ・シャキッとした態度で応待する。
- ・私語は慎む。(昼食中静かに)
- ・余裕のあるゆっくりした口調で話す。

3. 面会中

- 前回の面会から現在までの様子を簡単に話す。（治療以外のこと）
- 患者の状況に応じて
 - ・意識のある患者……好みに話をしてもらおう。手を握ってもらおう。
 - ・意識のない患者……声をかけてもらおう。手を握ってもらおう。
 - ……リハビリをしている場合、いっしょに行なってもらう。
 - ・挿管中の患者……コミュニケーションがとりやすいようにする。
 - 手のひらに文字を書く。紙とマジック、文字板等の使い方を説明する。
 - ・子供……スキンシップをすすめる。（手を握る、身体をさする。）
- 面会時間別に
 - ・朝……タオルにて顔を拭いてもらおう。ひげ剃り。
 - ・昼……食事介助、いっしょに行なう。
 - ・夕……うがい、歯磨き、顔を拭く。
- なるべく面会者の側にいるよう努める。
 - ただし、患者が会話できたり、スムーズにコンタクトがとれる場合、雰囲氣的に家族と患者だけを望む場合は席をはずす。
- その場を離れる場合は、「何かあったらカーテンの外にいますので声をかけて下さい。」と一言伝える。
- 面会中、ムンテラ中、患者と家族の様子、表情、行動を観察し記録に残す。
 - ・ムンテラをいっしょに聞き、家族が不満そうな表情をしていたら、「何か他に質問ありますか？」等声をかけ、医師とのコミュニケーションをとりやすくする。

4. 面会が終わったら

- 患者に「お家の方帰られますけど、よろしいですか？」
 - ・言い忘れなどないか確認する。
- 家族に「〇〇さん何かおっしゃっていましたか。」
 - ・患者から不満があるようなら聞いておく。
- 家族の面会が有効であったことを示す。
 - ・「何かとってもいい表情になりましたね。」家人がいないと寂しいということを実感してもらおう。
- 洗濯物があったら手渡す。
 - ・汚れがひどい時は程度の説明、または労をねぎらう。
 - ・ストックがどれくらいあるか伝えておく。
- 「次回の面会はいらっしゃいますか。」
 - ・「また明日お待ちしております。」
 - ・「御苦労様でした。気をつけてお帰り下さい。」
- 必ず所在地を確認しておく。

5. 臨機応変に

A. 緊急時

- 緊急処置を行ない、一段落ついたところで家人に面会してもらう。
(大がかりな処置、HDなど、家人の許しが必要となるのでその前に)
 - 処置に時間がかかるようであれば、途中経過を伝える。
(できれば医師に)
 - 説明はすべて医師にしてもらう。
- B. 末期の場合
- タイミング
- C. 小児の場合
- 啼泣にて安静が保持できない場合や、母を求める声がある時は、周囲の状況が許す限り、積極的に面会に入ってもらおう。
 - 申し送り中、処置中、急患入室時、入退室時は避ける。
- D. 患者が不穏に陥った時
- 明らかに家族を必要としている時は、セデーションの前にはまず、家人に面会してもらう。
(病棟で家族が待機している場合……夜間でも)
 - できれば家人に手を握っててもらい間にセデーションし、本人は安心して知らない間に眠ってしまうようにする。
- E. 手術後
- 2名ずつ、全部で6名までとする。
 - 患者に親しい人から最初に入ってもらおう。(術後のムンテラがわかる人)
 - 緊急手術の場合は、手術室入室前にエレベーターの前で会ってもらおう。
 - 家族の要望が強く、どうしても会いたい場合は許可する。
- <例外>
- 長期入室患者……一回の面会時間を長くしてもらうようにする。